

2021年(令和3年)7月オホーツク管内倒産集計

令和3年8月4日

株式会社 東亜リサーチ

北見市常盤町3丁目16番42号

Tel (0157) 23-6288

Fax (0157) 24-1033

6か月振りに発生ゼロ 累計負債総額は前年下回る

今年2度目の発生ゼロ

■前月比	件数	1件減少(令和3年 6月	1件)
	負債総額	2億2,400万円減少(" 2億2,400万円)

■前年同月比	件数	1件減少(令和2年 7月	1件)
	負債総額	1,200万円減少(" 1,200万円)

令和3年7月の発生状況

令和3年7月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生がゼロだった。これで前月比及び前年同月ともに皆減となり、月間発生ゼロは今年2回目で6か月振りとなった。

過去5年間の7月の発生状況を見てみると令和2年の1件を除き平成28年から元年までの4年間は発生はなく、平均発生件数は0.2件、同負債総額は240万円。遡ると平成26年から元年まで発生ゼロで推移するなど7月は倒産の少ない月であり、今年も発生ゼロに止まった。

過去5年間と今年1～7月の発生推移

今年1～7月の発生累計は件数で8件、負債総額は8億2,100万円となり、前年同期間と比較すると件数は同数であるものの、負債総額では倒産の小規模化から、3億7,700万の減少となっている。

過去5年間の発生推移は【右・表】の通りで、平均件数は10.6件、負債総額で11億7,438万円。今年の発生件数は前年と同数で最低の件数に止まっているほか、負債総額については3番目に少ない数値となっている。

過去5年間と今年1～7月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
28年	11件	22億1,700万円
29年	15件	6億6,700万円
30年	10件	11億4,400万円
元年	9件	6億4,590万円
2年	8件	11億9,800万円
3年	8件	8億2,100万円

今後の見通しと問題点

今年下半期のスタートである7月の倒産動向が注目されたが、発生ゼロに止まり、抑制状態は続いている。しかし、4～6月で改善傾向にあった管内景況は、7月に入ってコロナ感染者が急増。外出自粛ムードが拡がり小売業、飲食業、宿泊業、サービス業は再び悪化を余儀なくされている。当社集計の上半期の建築確認申請数は前年比19%増だったが、6月実績が前年を大きく下回るなど陰りがみえるため、下半期は建築資材高騰の影響もあって失速する可能性もある。

管内倒産は抑制されているが、新型コロナウイルス感染症特別貸付を導入した管内企業の60%が返済までの据置期間を2年以内に設定している。借入金によって一時的に資金繰りは緩和したが、長期化するコロナ禍のなか、売上が回復しないまま膨らんだ負債の返済が始まっているため、資金繰りが行き詰まる企業が徐々に増加する可能性は否定できない。